

まちのキラリびと



健康運動指導士
西井 美夏 さん

コロナに負けず、笑顔で乗り切りましょう！

努力は人を裏切らない

健康運動指導士とは、各年齢や心身の状況に応じて安全で効果的な運動を提供するものです。20年以上前から、市民向けの教室を実施しています。最近では、脂肪燃焼エクササイズ教室や介護予防教室、親子教室などを実施し、これまでリピーターを含めて子どもからお年寄りまで、数えきれないほどの参加者の健康増進に努めてきました。

また、健康運動指導士として活動している傍ら、空手の競技者としても研鑽を続けています。空手道場「道心館」に所属し、門下生の指導の傍ら、自分自身も日々鍛錬を続け、現在、国内の女性では日本最高位の7段を取得しています。審判ライセンス取得にも注力し、県内審判では唯一、全国組手審判員最高のAランクを10年連続で保持し、昨年開催された第50回全日本空手道選手権大会では副審判長も務めました。さらには、アジア選手権の審判を務めることができる、AKF（アジア空手道連盟）組手審判員レフリーAを取得し、国際審判員としても活躍しています。

一線を退いた頃から、健康運動指導士として、競技者として、手を伸ばせば届く目標よりも、手の届かない目標を掲げ、そこに向かって研鑽するように心掛けるようになりました。今後も初心を忘れず自己研鑽に励み、世界の審判ライセンス取得だけでなく、指導者として後継者育成に力を注ぎ、福井県空手道連盟の発展の為に精進します。また、子どもからお年寄りまで、様々なスポーツを通じて、笑顔を作れる指導者を目指します。

▼全日本空手道選手権大会の審判を務める西井さん（中央）



▼エクササイズ教室の風景



まちの宝を発見！

つるが歴史遺産



案内人 学芸員 坂東 佳子

2月25日から、引札と素晴らしい芸術作品が博物館に展示されます！



敦賀の引札

いろいろな楽しい引札の世界

「引札」とは江戸時代から大正時代にかけての「広告チラシ」です。印刷技術の発展とともに大量に刷られました。再利用の後に廃棄される事もあり、現在では美術品として収集の対象となっています。

明治17年（1884）、鉄道を介して太平洋側と結ばれ、関西・中京地域を商圏とした敦賀港は、鉄道開通前の数十倍に達する移出入額を記録しました。しかし、北陸線が富山県内に延伸した明治33年（1900）を最後に、額は激減することになりました。

博物館に所蔵されている引札は、鉄道開通により空前の繁栄を謳歌する敦賀港にひしめいていた、運送業者や小売業者の引札です。その絵柄は土地柄を反映する「船」や「汽車」が多いのですが、年末年始の挨拶代わりにも配られたため、「鶴」や「日の出」などの、めでたい絵柄も多いです。そして、書かれている宣伝文句も面白いのです。例えば運送業者の文言には「地球の運転することく（スムーズに）」「北極星の動かざることく大切に（荷物を運ぶ）」などとグローバルな言葉が並びます。

人々の興味をひくため、いろいろと詰め込んだ絵柄もあります。小脇に「大福帳」と「そろばん」、右手に「筆」を持った浦島太郎の背景には、文明開化の象徴である「汽車」や「工場」が描かれています。「竜宮城に何をしに行くの?」「竜宮城から商売道具一式を持たされて戻ってきたの?」と突っ込みます。これは、当時の不可解な絵柄です。当時の人々の、文明開化の世の中に対する期待や商売繁盛への執念がうかがえる、楽しい引札なのです。

広報担当者のつがやき

今回表紙を飾っていただいた金城選手、キラリびとにご協力いただいた西井さん。世界を舞台に挑戦する方々のお話を身近で伺うことができました。お二方とも背丈はそこまで大きくないのですが、オーラといいますが、その雰囲気がとても大きく感じました。ご活躍を期待しています。(T)

先日敦賀駅を訪れると、うっすらと雪が残る芝生の上で楽しそうに遊び回る園児の姿がありました。ottaが供用開始となり約半年、市民の憩いの場として浸透しているんだと実感しました。(M)

